

研究所紹介

Ma Chung Research Center for Photosynthetic Pigments (MRCPP), Indonesia (インドネシア、マ・チュン大学 光合成色素研究センター)

塩井 祐三 (MRCPP, Ma Chung University)

E-mail: yuzo.shioi@machung.ac.id

インドネシア、東ジャワ州マラン市のマ・チュン大学 光合成色素研究センターをご紹介します。私は3年ほど前にふとしたことからこの研究所を知り、そしてまた不思議な縁で現在は主席研究員として働いています。

マ・チュン大学は2007年に創立された比較的新しい私立大学です。MRCPPはこの大学で中核をなす研究センターとなっています。昨年にはMRCPPは色素類の高機能化に関してインドネシアの大学でCenter of Excellenceの1つに選ばれました。そして、マ・チュン大学は今やインドネシア国内では著名な国立大学とならび高い評価を得ています。

研究センターの職員は、センター長のDr. Brotosudarmo、主席研究員は学長で兼務のDr. Limantaraと私、研究員4名、研究補助員2名、テクニシャン1名、秘書が1人です。研究員の3名は日本で修士の学位を取っています。残念ながら、まだ大学院は設置されておらず、従って学生もおりません。

設備は、島津のLCMS 8030、HPLC LC20、分光器、Beckman超遠心機、冷却遠心器、AKTA start、各種細胞波破碎機など、一般の機材はほぼそろっていますが、遺伝子関係はほとんどありません。私が見た限りインドネシア国内のいくつかの有名大学と比較しても設備は整っています。しかし、この大学に限ることはありませんが、研究環境はあまり整っているとは言えません。基本的なインフラも完全ではなく、物流にも問題があります。試薬、消耗品などは注文してから届くまで数か月間もかかることもあります。また、実験器具、薬品などの物品はほとんどが輸入品であり、日本と比べて高価です。

予算は採択される科研費によって毎年変わりますが、年間の経費は日本円換算で600万円以上、昨年度は約900万円でした。それに校費、約400万円（この数年間の平均額）が加わります。職員の人件費はすべて大学等の負担で別枠です。驚いたことに、職員の給料は日本とは異なりとても低いです。大学や都市によって変わるようですが、ちなみに、この研究所の学部卒の研究補助員の基本給は月に約1万2千円、修士修了の研究員で約2万3千円程度です。また、研究員によっては採択された研究費によって、月1万円程度の増額もあるようです。余談になりますが、センター長と学長のお二人は、公務の傍ら研究費獲得のための申請書そして報告書作りに日々没頭しています。こんなところは日本の現状とまるでかわりません。

このセンターのこれまでの研究課題は光合成細菌のLH2の解析やインドネシアの生物多様性を活かした藻類の色素の分析などが主になっていますが、成果は、創設7年目ということもあり、残念ながら多くはありません。しかし、国内外との研究交流は日本以上に盛んで、数多くの大学間協定を結んでおり訪問客が絶えません。国際学会、国内学会の発表は数多く、国際学会の開催も3回あります。紙面の都合上詳細を述べることはできませんでしたが、研究センターの職員、研究内容、成果については、ホームページ（下記）をご覧ください。なお、ホームページに写真がありますが、MRCPPは円筒形の建屋の4階にあり、Kawi山系の雄大な山並みが一望できます。最後に、この大学は今や理系中心の総合大学として大きく発展しようとしています。その中でこのMRCPPがさらにどのように進展していくのか、これからが楽しみです。

研究センターホームページ：<http://mrcpp.machung.ac.id/>

大学ホームページ：<http://machung.ac.id/>

これまで開催した国際学会とそのホームページ

2nd (2013) Natural Pigments Conference for South-East Asia: <http://np-sea.machung.ac.id>

2011 Humboldt-International Conference on Natural Sciences: <http://humboldt-icons.machung.ac.id>